

シンプルーサラダシリーズ: シティガーデンミックス/ グローバルグルメミックス/アルフレスコミックス/

以下の野菜種子を含む: *Lactuca sativa/Brassica spp./
Eruca sativa/ichorium spp./Chrysanthemum coronarium*
マルチペレット粒数の目安: 30 から 70 粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。pH は 5.8 から 6.2、初期の培地中の養分は中庸(EC:0.75mmhos/cm(2:1))が適正

播種

シンプルーサラダでは、105/128穴トレイへの播種、または出荷鉢への直播きが適当。培地中の水分が保持されるよう、粗めのパーミキュライトで軽く覆土をする。その際に、発芽向上のため、光が覆土を通して種子に到達することが大切である。出荷鉢へ直播きすると、全体の生産期間をだいたい1週短縮することが可能

ステージ 1 - 発芽には 2、3 日を要する

温度: 18 から 22°C

光条件: 光はオプション(選択的)

水分: 発芽期間中は、培地をやや湿潤(level 4)で維持

湿度: シンプルーサラダは、ベンチ上での発芽が可能。培地の水分は均等にやや湿潤の状態を維持し、とくに空気中の湿度を高くする必要はない

ステージ 2

温度: 20 から 21°C

光条件: このステージでは 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を最大とする

水分: ステージ 2 では、標準/中庸からやや湿潤(level 4 から 3)の間で管理する

肥料: レート 1(100ppm(N)、EC 値が 0.7mS/cm)の濃度で、リン酸分が低い硝酸態肥料を用いる。培地の pH は 5.8 から 6.2、また EC は 0.5 から 0.7mS/cm(1:2)の範囲を維持する

ステージ 3

温度: 18 から 19°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を最大とする

水分: 培地の水分レベルを標準/中庸からやや乾燥(level 3 から 2)へ低減する。ただし苗を枯らせないように注意する

肥料: 肥料の濃度をレート 2(100 から 175ppm(N)、EC 値が 0.7 から 1.2mS/cm)に上げる。培地の pH は 5.8 から 6.2、また EC の値は 0.7 から 1.0 mS/cm(2:1)の範囲とする

ステージ 4

温度: 16 から 17°C

光条件: 54,000 ルクス(5,000 f.c.)を最大とする

水分: ステージ 3 同様、標準/中庸からやや乾燥(level 3 から 2)を続ける

肥料: 上記ステージ 3 同様、レート 2 の肥料を続ける

矮化剤: 不要

鉢上げから出荷まで

培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用する。pH は 5.8 から 6.2、初期の培地中の EC は 0.75mS/cm が適正

温度

昼間温度: 16 から 21°C

夜間温度: 13 から 16°C

※ 低温と強い光条件のもとでは、葉の発色が高まる

光条件(照度)

温度管理が適正であれば、できるだけ照度は高い方がよい。温度の高いときは適宜遮光し、温度を下げる

かん水

土を乾燥させないように水分を維持する

肥料

週に一度、レート 3(175 から 225ppm(N)、EC 値:1.2 から 1.5mS/cm)の濃度で与える。株の生長の程度や pH バランスを見ながら、アンモニア態、あるいは硝酸態の汎用タイプの肥料を与える

矮化処理剤(PGR)

不要(用いない)

ピンチ

ピンチは不要である

平均的な生産期間

播種から移植まで(105/128 穴トレイ): 2 から 3 週

移植から出荷適期まで: 以下参照

コンテナ サイズ	移植本数 /ポット	移植後、 出荷まで	播種から 出荷まで
10.5 から 11cm ポット	1 株	2-4 週	4-7 週
20cm ポット/ コンテナ	3-4 株	2-4 週	4-7 週
25cm コンテナ	4-5 株	4-6 週	6-9 週
30cm コンテナ	5-6 株	4-6 週	6-9 週

出荷鉢へ直播きした場合は、上記の数字よりも早く仕上がる。播種から出荷までの期間は約 1 週短縮される

留意点:

シンプリーサラダの魅力として、一度刈った後にもう一回収穫が可能です。地表面から 5 ないし 7cm のところで切り戻しをすると、2、3 週後に再度「野菜」を収穫できます

予想される一般的な障害等

病気: とくに深刻な病例等は報告されていない

害虫: アブラムシなどに注意する

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてお使いください。生産物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに沿った正しい使用方法とるようにしましょう

注意点: EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合があります。